

令和 6 年度 事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで

特定非営利活動法人 チョウタリィの会

1 事業の成果

● 途上国における教育環境の改善を図るための校舎建設等の協力事業

■ E-ライブラリ開設プロジェクト

当法人では 2010 年より「ネパールにおける公立学校新校舎等建設支援プロジェクト」を行なっています。当期では、当プロジェクトの 31 校、32 校、33 校目としてカブレパランチョーク郡デュリケル市 9 区のカルタリ・セカンダリ学校、デュリケル市 10 区のパル・ジョティ・ベーシック学校、パンチカール市 7 区のアランシタン・ベーシック学校の 3 校の E-ライブラリが完成しました。



完成したカルタリ・セカンダリ学校 E-ライブラリ



完成したパル・ジョティ・ベーシック学校 E-ライブラリ



完成したアラヤンシタン・ベーシック学校 E-ライブラリ



【「E-ライブラリ」とは】

E-ライブラリとは、デジタルツールを整備したコミュニティ図書館のことです。生徒、教師の他に地域の大人も利用でき、読書はもちろん6台または8台のデスクトップコンピュータによりインターネットを通じて多くの知識を得ることができます。

ネパールの山間地域のほとんどの公立学校では1台のコンピュータも所有していない状況となっています。また、図書室もなく子どもたちは、満足に読書をすることもできない環境におかれています。

他国の学校では、1人に1台のタブレット端末を使用した教育が行なわれ始めている中で、ネパールの山間地域の公立学校では、情報通信における教育環境が他国と比べ比較にならないほど遅れています。この状況のままだと、デジタルネイティブ世代であるはずの子どもたちが、デジタル格差となって取り残され、未来の可能性が小さなものになってしまいます。

当法人が行ったネパールにおけるE-ライブラリ開設支援は、今回を含め8校の公立学校で完成し開館しています。開館した学校からは、画期的な支援と評され生徒、教師、地域の人々の他、行政からもとても喜ばれています。当地の行政（市役所）では、当法人のプロジェクトを参考にE-ライブラリの建設を行う動きが始まりだしています。

当法人では、子どもたちに読書ができる環境とコンピュータで多様な知識を得ることができる環境を作ることによって、子どもたちに心が豊かで平和な社会を築いてもらいたいと思います。

【支援の概要】

E-ライブラリ開設支援プロジェクトでは、各校において以下の支援を行ないました。

- ① E-ライブラリの建設
- ② 本棚、テーブル、椅子などの家具の提供
- ③ 図書の提供
- ④ デスクトップコンピュータ6台と関連機器の提供
- ⑤ ネット回線などの環境整備

【新規のプロジェクト】

当期において下記の公立学校2校においてE-ライブラリ開設プロジェクトを開始しました。

ナンダ・デビ・ベーシック学校（カブレパランチョーク郡バネパ市3区）

ジャナ・ジョティ・ベーシック学校（カブレパランチョーク郡バネパ市10区）

■ カルタリ・セカンダリ学校 校舎及びトイレ棟の改修支援

カルタリ・セカンダリ学校（デュリケル市9区）は、当法人が2010年より新校舎建設支援及びトイレ棟の建設支援を行い2011年に完成させた学校で完成より13年の歳月が経ちました。建物の経年劣化の防止を図るため当期において改修支援を行いました。校舎においては、室内外の塗装、ドア、窓、雨戸を新しい物へと取替え、トイレ棟も室内外の塗装、ドア、窓、便器を新しい物へと取替えました。



改修したカルタリ・セカンダリ学校の校舎



改修したカルタリ・セカンダリ学校のトイレ棟

ネパールは、内陸国で地理的に貿易による産業が発展しづらい環境となっています。そのため、外貨を得るための手段として多数の若者が安価な労働力として他国へ出稼ぎに行きます。

また、出稼ぎ先においてパスポートを取り上げられ訓練もされずいきなり危険な作業を強いられている若者も存在しています。さらに、児童労働や児童婚、悪質なブローカーによる人身売買など子どもの権利を侵害する理不尽な行為も行われています。

これらの問題の原因は、貧困の連鎖であり、貧困の連鎖を止めるためには質の高い教育を子どもたちに提供することが必要であると考えます。

ネパールにおいて全ての子どもたちに対して教育を充実させ、医療や ICT の技術が発展すれば、自国においての産業が創出され発展し、これらの問題も解消することができるのではないかと思います。

そのためにも、新校舎の建設や E-ライブラリの開設など教育環境の整備が必要となります。

● 国際交流に関する事業

校舎建設等の協力事業に伴って、前期に完成したガネーシャ・セカンダリ学校の新校舎、ジョアパティ・セカンダリ学校の E-ライブラリ、当期に完成したカルタリ・セカンダリ学校の E-ライブラリ、バル・ジョティ・ベーシック学校の E-ライブラリの公立学校 4 校の開校式、開館式に出席しました。



ガネーシャ・セカンダリ学校の新校舎開校式の様子



ジョアパティ・セカンダリ学校 E-ライブラリ開館式の様子



バル・ジョティ・ベーシック学校 E-ライブラリ開館式の様子



カルタリ・セカンダリ学校 E-ライブラリ開館式の様子

各学校において、子どもたちによる民族音楽での踊り、校長や生徒の感謝の言葉、市長等の来賓者の挨拶など地域を上げての歓迎を受けました。子どもたちや教師たちからの感謝の言葉から、E-ライブラリが学校だけではなく学校周辺地域にとっても大きな役割や意義があるものであることをこの度も実感しました。また、当法人が行っている新校舎等の建設支援は、カブレパランチョーク郡においてその活動が呼び水となり、当地において他国からも同様の支援が行われはじめ支援の輪が広がりつつあります。

● 「困難な状況にある子どもたち等に対する教育、保健等の支援事業」

■ HIV 感染者を家族に持つ子どもたち（里子）への就学支援

当法人では、タイにおいて、HIV 感染者を家族に持つ子どもたちを里子として、1996 年より就学のための支援を継続して行なっています。また、子どもたちとの手紙やプレゼントをなどによる交流を通して友好を深めています。当期においても、里子たちへの就学支援を行いました。

里子たちのほとんどの家庭は、日雇い労働で生計を立ており、収入が少なく不安定で、中にはタイの国籍がなく将来に対する不安を抱えている家庭、親が病気で子どもが介護している家庭など多くの問題を抱えています。しかし、里子たちはそれらの苦勞を抱えながらも学校に通い、家族を助けて懸命に日々を暮らしています。

HIV 感染者を持つ家庭は、概して貧しく、精神的にも疲れており、経済的に子どもを学校に通わせることが困難な状況である場合が多く、そのためそれらの子どもたちは、未来に希望を持つことができない状況となっています。また、その状況は貧困層の固定化につながり次世代においても貧困の連鎖が続く原因となっています。



里子からの手紙

当法人では、困難な状況にある子どもたちの未来を開くため、それらの子どもたちに就学支援を行ない子どもたちの未来が明るいものになるように支えていきたいと思っています。

● 海外におけるその他の教育支援及び保健支援

■ カリ・デビ・ハイヤー・セカンダリ学校への教育支援

当法人は、2018年にネパールのラリトプル郡マリタ村8区に在るカリ・デビ・ハイヤー・セカンダリ学校に新校舎の建設支援を行いました。同校は、山奥の僻地に在り、カトマンズからの道のりにおいて崖伝いの未舗装のかなり険しく危険な道を通ってしか行くことができないところに在ります。現在、同校では女子生徒が安全に通学できるようにするための女子寮の建設を行っており当法人では、同校の取り組みに賛同し教育支援金を寄附しました。



校長に教育支援金を寄附

■ ネパール公立学校におけるマスク等の配付による保健支援

当法人では、コロナ禍よりマスクを必要とする人に無料でマスクを配付する「マスクバンク」プロジェクトを行っています。日本国内においては、コロナ禍当時の様なマスク不足は既に解消しその役割は終えましたが、ネパールにおいては、感染症の予防、乾季における砂ほこり対策としてマスクは必要不可欠なものとなっています。しかし、山間部の村では、経済的な問題、流通の問題等から慢性的にマスク不足の状態となっています。当期においてチョウタリィでは、E-ライブラリ開館式等を行った4校の公立学校の生徒、教師、地域の住人に保健支援としてマスク及びタオルを配付しました。



マスク等を公立学校4校の生徒に配付

● 子ども育成支援

■ 「元氣ごはん宅食」「きら星ごはん宅食」プロジェクト

当期は、奈良市西部地域における「元氣ごはん宅食プロジェクト」（子どもや妊婦への宅食を通しての見守り支援事業）の4期目となりました。

当プロジェクトでは、主に一人親家庭にお弁当、お菓子、果物などを毎月2回お届けし、利用家庭の生活状況や体調を見守ることを目的としています。

統計によると国内の一人親家庭の約半数が相対的貧困の状態となっています。また、経済的な問題だけではなく一人で子育て等の悩みを抱えてしまい、精神的にも大きな負担を感じてしまうこともあります。

一人親家庭においては、親本人が病気になったり、育児不安になったりした場合、自分から役所に関談に行くことが難しくなり、そのため育児を行う事ができず子どもの生命にも関わる問題となってしまいます。そのため、宅食を通しての見守りはとても重要な役割を果たすものと思います。

当期の「元氣ごはん宅食」は、4期目となることから、奈良市の方針によりこれまで行っていた利用家庭の全てが変更となりました。そのため当法人では、前期において引き続き支援が必要と思われる家



元氣ごはん宅食の準備の様子

庭については、「きら星ごはん宅食」として見守り支援を継続しました。

当法人では、困難を抱えている人々が、誰にも相談することなく、一人で悩み苦しんでいる状況を解消して、必要であれば更なる支援につなげて誰一人として決して孤立孤独にさせない社会の構築を目指していきたいと思います。

■ 「元気子どもカフェ」プロジェクト

前期に引き続き子どもたちの居場所支援として「元気子どもカフェ」プロジェクトを行いました。

現在、子どもたちを取り巻く社会では、いじめ、不登校、児童虐待、ネグレクト、ヤングケアラー、子どもの貧困などがあり、そのどれもが深刻な問題であると認識しております。文部科学省は、現在の子どもたちは、基本的な生活習慣が乱れ、さらに、他者への思いやる心、規範意識、生命や人権を尊重する心、人間関係を形成する力などが低下傾向にあると指摘しています。当法人では「元気子どもカフェ」を月2回開催し、絵本専門士や元幼稚園教諭による、



元気子どもカフェの様子

音楽、工作、絵本の読み聞かせなどを行い、お菓子の時間も作って、子どもたちが安心して楽しい時間を過ごすことができる居場所を提供しました。この活動では、読み聞かせなどの情操教育を通して、子どもたちが心豊かに健やかに成長することを目的としています。

2期目となった当プロジェクトでは、参加者も増えましたが、その反面、どうしても人の輪に入ることができない子どもがいることもわかりました。本来ならその様な子どもにこそ当プロジェクトに参加してもらいたいと思います。次期においては、その点を考慮した居場所支援活動を行いたいと考えています。子どもやその親が地域や学校などにおいて孤立や孤独にならないよう活動を通して見守りたいと思います。

■ 「元気子どもライブラリ」のオープンセレモニーの開催

当法人では、次期における子ども居場所支援として「元気子どもライブラリ」プロジェクトを行う予定としています。当プロジェクトは、賑やかな状況では人の輪に入ることが苦手な子どもたちのために図書室という静かな環境を作ることによってその輪の中に自然に入りやすくし安全で安心した居場所を提供し子どもたちが健やかに成長することを目指した活動にしたいと思います。当期では、当プロジェクトを地域の人々に周知するために図書の紹介、フルート奏者による演奏、絵本専門士による読み聞かせなどを行ってオープニングセレモニーを開催しました。



元気子どもライブラリオープンセレモニーの様子



元気子どもライブラリの絵本等の図書

- 「機関紙、刊行物、講演、展示会、映像上映等による広報及び啓発事業」

- 講演活動

当期においても大阪市内で支援者向けの講演を行ないました。また当期においては、当法人が任意団体として活動をはじめてから30年が経ち、その節目として創立から30年の活動を振り返った「チョウタリィの会30年の活動報告会」という講演会を奈良市ボランティアインフォメーションセンターで行いました。さらに同センターが主催の「社会貢献団体の創設者が語るボランティアの魅力」と題した講演会で講師を務めました。人々に当法人の活動を知って頂くことができました。



奈良市ボランティアインフォメーションセンターでの講演会の様子

- 機関誌等の発行

当期においても、「チョウタリィ通信」を発行し、支援者や一般の人々に配布しました。

- 「関連団体及び関係する国際機関との相互協力」

奈良市ボランティアインフォメーションセンター主催の「はぐはぐ祭り 2024」、「拡大パネル展」奈良県コンベンションセンター主催の「オーガニック天平マルシェ」に出展しました。

また、あやめ池地域のお餅つき大会有志の会主催による「お餅つき大会」に場所の提供、開催運営の協力を行ないました。



はぐはぐ祭り 2024



拡大パネル展



お餅つき大会の様子



オーガニック天平マルシェの様子

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
困難な状況にある子どもたち等に対する教育、保健等の支援事業	タイにおいて HIV に感染している家族を持つ子どもたちへの就学支援を行った。	通年	タイ バンコク ムクダハン 県、 バンガー県	2 名	HIV 感染者を家族に持つ子どもたち 10 人	4 4 0
	インドのスラム地区のフリースクール運営支援のあり方等について現地と協議した。	8 月	インド 西ベンガル州 コルカタ	1 名	スラム地区で暮らす子ども等多数	5 8
	ネパールにおいて僻地の公立学校に教育支援を行なった。また開校式等で訪れた公立学校 4 校の生徒、教師等に保健支援としてマスク等を配付した。	通年	ネパール ラリトプル郡 マリタ村 カブレチョーク郡 デュリケル市 パンチカール市	3 名	当該地域の生徒、教師、住民等多数	6 7 1
	子ども育成支援において「元気ごはん宅食」として一人親家庭等にお弁当やお菓子等の配付を行うことにより利用家庭の見守り支援を行った。また「元気子どもカフェ」として子どもたちに、音楽等の情操教育を行い、お菓子等も提供して安全で楽しい居場所支援を行った。	通年	奈良市	5 名	奈良市が支援を必要とした家庭の子ども及び妊婦 25 名 孤立孤独を感じる子ども 50 名	1, 9 6 3
途上国等における教育環境の改善を図るための校舎建設等の協力事業	ネパールにおいて、前期より引き続き 1 校の校舎建設支援、3 校の E-ライブラリ開設支援を行い、当期より 2 校の E-ライブラリ開設支援を開始し、1 校の校舎及びトイレ棟の改修支援を行った。	通年	ネパール カブレパラン チョーク郡 デュリケル市 パンチカール市 バネパ市	3 名	図書館及び校舎建設地域の子どもたち、住民、教師等	1 3, 5 4 9

途上国等における養護施設、助産施設、医療施設等の環境改善を図るための協力事業	インドネシアにおいて経済的に貧しい人たちに対して無料で助産行為を行っている助産院への支援	今年度は実施せず				
地球環境問題解決のための緑化推進活動等による環境保全事業	地域における緑化運動推進のためのローズマリー等の苗木作り及び植樹活動	今年度は実施せず				
HIV 及び AIDS の予防を目的とした啓発事業	タイのムクダハン県等におけるエイズ予防セミナーの実施	今年度は実施せず				
HIV 及び AIDS 感染者の人権を擁護するための事業	タイのバンコク等におけるエイズ患者の家族に心穏やかに安心して暮らせる住居の提供及びエイズ患者家族に対する生活支援	今年度は実施せず				
途上国等における自立を目指す人々への協力事業	自立を目指す人々の製品の技術等の支援及び日本国内での製品の紹介等	7 月 11 月	奈良市	3 名	フィリピンの貧困家庭の女性	1 0 1
国際協力及び海外事情の調査研究に関する事業	国際社会における貧困、格差、紛争、地球環境等の諸問題における調査及び研究活動	今年度は実施せず				
機関紙、刊行物、講演、展示会、ウェブサイト、映像上映等による広報及び啓発事業	支援団体において事業活動等についての講演を行った。 「チョウタリィの会 30 年の活動報告会」を行う 「社会貢献団体の創設者が語るボランティアの魅力」の講師をする。	8 月 9 月 10 月	大阪市 奈良市	5 名	支援者 約 5 0 0 人 奈良市民約 70 人	6 9
	機関紙「チョウタリィ通信」を作成した。	6 月	奈良市	2 名	不特定多数	9 6
社会教育及び政策提言事業	ボランティア講座の開催	今年度は実施せず				

関連団体及び関係する国際機関との相互協力	奈良市ボランティアインフォメーションセンター主催の「はぐはぐ祭り」、奈良県コンベンションセンター主催の「オーガニック天平マルシェ」に出展した。	7月 11月 12月	奈良市	3名	来場者等多数	45
	あやめ池地区民生委員・児童委員協議会主催のお餅つき大会の開催に、開催準備、場所の提供等の協力をした。	11月	奈良市	4名	あやめ池地区住民 約350名	3
災害復興協力事業	サラスワティ・ベーシック学校（ネパール）の復旧のための協議を現地カウンターパートとリモート等で行なった。	通年	奈良市	3名	当該被災学校の生徒、教師、周辺住民 多数	31
国内外の伝統文化等の紹介及び国際交流に関する事業	ネパールにおいて公立学校3校のE-ライブラリの開館式と1校の新校舎の開校式を行なった。	4月	ネパール カブレパラン チョーク郡 パンチカール市 デュリケル市	5名	当該E-ライブラリ開設学校3校及び新校舎完成学校1校の生徒、教師、周辺住民等 多数	566

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額 (千円)
イベント開催事業	手工芸作家等による作品展の開催	今年度は実施せず			
文化教育事業	手芸、音楽等の文化教室事業	今年度は実施せず			

* 報告書の金額表示は、原則として単位未満の端数処理を四捨五入で表示しているため、表中の金額と内訳の合計が一致しない場合があります。